

(仮称) 小平市第四次長期総合計画 (答申案) からの修正内容

【基本構想】

No	ページ	内容
1	p.3	<p>「1 基本構想の体系」の上から 6 行目 「将来像の実現に向けては、人が育ち、学び、新たな価値を創造する「ひとづくり」、多様性を認めあい、つながり、共生する「くらしづくり」、自然と調和した、美しく快適で、魅力ある「まちづくり」の3つの基本目標に沿って取組を展開します。<u>さらに、「ひとづくり」「くらしづくり」「まちづくり」を横断するプロジェクトを設定します。</u> <u>そして、「ひと」や「もの」などの資源を活用し、「ひとづくり」「くらしづくり」「まちづくり」を進める「自治体経営方針」を定めます。」</u></p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「将来像の実現に向けては、人が育ち、学び、新たな価値を創造する「ひとづくり」、多様性を認めあい、つながり、共生する「くらしづくり」、自然と調和した、美しく快適で、魅力ある「まちづくり」の3つの基本目標に沿って取組を展開します。<u>そして、「ひと」や「もの」などの資源を活用し、「ひとづくり」「くらしづくり」「まちづくり」を進める「自治体経営方針」を定めます。</u> <u>さらに、それらを横断するプロジェクトを設定します。」</u></p>
2	p.4	<p>「方針 1」の上から 1 点目 「子どもを中心に位置付け、<u>市民や地域が連携し、子どもの健やかな成長を支援します。」</u></p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「子どもを中心に位置付け、<u>子どもの健やかな成長のために、保護者の子育てを地域や行政が連携して支援します。」</u></p>
3	p.4	<p>「方針 1」の上から 2 点目 「少子化、核家族化、価値観の多様化など、子どもを取り巻く環境の変化に対応しながら、妊娠期からの包括的な支援をはじめ、子どもの成長や発達段階に応じた継続的で多様な保育サービスや支援体制により、<u>安心して子育てができる環境のさらなる充実を図ります。」</u></p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「少子化、核家族化、価値観の多様化など、子どもを取り巻く環境の変化に対応しながら、妊娠期からの包括的な支援をはじめ、子どもの成長や発達の段階に応じた継続的で多様な保育サービスや、<u>相談・交流の場の充実など、安心して子育てができる環境の整備に取り組みます。」</u></p>
4	p.4	<p>「方針 1」の上から 3 点目 「児童・生徒一人ひとりの置かれた状況に応じた教育の充実と、<u>オンラインの活用など、学校環境の整備を推進します。」</u></p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「ICT 教育環境の整備を進め、<u>児童・生徒一人ひとりの置かれた状況に応じた学びの充実を図ります。」</u></p>
5	p.6	<p>「方針 4」の上から 3 点目 「性的マイノリティについて正しい理解の浸透を図るとともに、<u>困難に寄り添った支援に取り組みます。」</u></p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「多様な性に対する認識や理解を深めるとともに、<u>性的マイノリティの困難に寄り添った支援に取り組みます。」</u></p>

6	p.7	<p>「方針 5」の上から 4 点目</p> <p>「生活困窮者の相談支援体制の充実を図るとともに、個々の状況に応じた就労支援や生活支援を包括的に行うなど、<u>早期の自立に向けた支援を行います。</u>」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「ひきこもりや貧困などの問題に対して、<u>個々の状況に応じた支援対応の充実を図り、社会的自立を後押しする環境をつくります。</u>」</p>
7	p.8	<p>「令和 14 年のありたい姿」の下から 2 点目</p> <p>「農地の持つ多面的な機能をいかした取組が展開されるとともに、四季折々の市内農産物が<u>あらゆる場所</u>で手に入り、豊かな交流と豊かな食文化が継承されています。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「農地の持つ多面的な機能をいかした取組が展開されるとともに、四季折々の市内農産物が<u>様々な場所</u>で手に入り、豊かな交流と豊かな食文化が継承されています。」</p>
8	p.9	<p>「方針 8」の上から 2 点目</p> <p>「様々な機能が集積した<u>鉄道駅中心拠点</u>の形成を促進するとともに、拠点同士を道路・交通ネットワークで結び、相互の補完や連携の強化を図ります。また、地域との協働により広域的視点から地域の公共交通体系を構築し、多様な移動手段の創出による利便性の向上に取り組みます。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「様々な機能が集積する<u>鉄道駅を中心とした拠点</u>の形成を促進するとともに、拠点同士を道路・交通ネットワークで結び、相互の補完や連携の強化を図ります。また、地域との協働により広域的視点から地域の公共交通体系を構築し、多様な移動手段の創出による利便性の向上に取り組みます。」</p>
9	p.9	<p>「方針 8」の上から 3 点目</p> <p>「交通の円滑化及び安全安心に暮らせる交通環境の実現を図るため、都市の骨格となる都市計画道路の<u>計画的な整備</u>や<u>鉄道立体化</u>に向けた関係機関との調整を進めます。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「交通の円滑化及び安全安心に暮らせる交通環境の実現を図るため、都市の骨格となる都市計画道路の<u>整備</u>を着実に進めるとともに、<u>鉄道立体化</u>に向けた関係機関との調整を進めます。」</p>
10	p.9	<p>「方針 9」の上から 2 点目</p> <p>「<u>イベントの実施や環境整備</u>等により、地域に密着した商店会の振興と地域経済の活性化を図ります。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「<u>にぎわいと交流の場の創出</u>など、市民、商店会、事業者、経済関係団体及び市が協働して<u>取り組み、魅力ある商店街を守り育てます。</u>」</p>
11	p.9	<p>「方針 9」の上から 3 点目</p> <p>「地産地消・食育の推進、農産物の高付加価値化・ブランド化、農地の多面的要素の活用などにより<u>農業の担い手を確保</u>するとともに、<u>都市農業を振興し、農地の適切な保全</u>につなげます。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「地産地消・食育の推進、農産物の高付加価値化・ブランド化、農地の多面的要素の活用などにより、<u>多様な農業の担い手・支え手を確保</u>するとともに<u>農地の適切な保全</u>につなげます。」</p>

12	p.12	<p>上段図</p> <p>「行政によるサービス」→「行政の活動領域」</p> <p>「●将来に向けた財政運営・財産活用」→「●将来に向けた財政運営・財産活用（方向性 2）」</p> <p>「●運営・業務執行体制の効率化」→「●運営・業務執行体制の効率化（方向性 3）」</p> <p>「●職員と職場の活性化」→「●職員と職場の活性化（方向性 4）」</p> <p>「自治の拡大・深化」→「自治の拡大・深化（情報の共有）（参加・協働）」</p> <p>「市民等によるサービス」→「市民等による活動領域 ■ 地域社会・活動への参加、 ■ 民間部門の多様な主体によるサービス提供」</p> <p>「●地域資源によるサービスの実現」→「地域資源によるサービスの実現（方向性 1）」</p>
13	p.13	<p>「方向性 3」の下から 3 行目</p> <p>「時代の流れに沿った施策を展開していくため、スマート自治体への転換が不可欠であり、AI や RPA の導入や、ペーパーレス化の推進、業務システムの標準化・共通化を含む広域連携により、業務執行体制の効率化と、サービスの利便性向上等を目指します。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「時代の流れに沿った施策を展開していくため、スマート自治体への転換が不可欠であり、行政のデジタル化に沿った業務執行体制の効率化と、サービスの利便性向上等を目指します。」</p>
14	p.14	<p>「4 基本目標横断プロジェクト」の上から 2 行目</p> <p>「基本目標横断プロジェクトは、第四次長期総合計画の 12 年間で基盤づくりとして捉え、持続可能な社会を構築するために、基本目標である「ひとづくり」「くらしづくり」「まちづくり」と「自治体経営」を横断して取り組んでいく内容です。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「基本目標横断プロジェクトは、第四次長期総合計画の 12 年間で基盤づくりとして捉え、持続可能な社会を構築するために、基本目標である「ひとづくり」「くらしづくり」「まちづくり」と「自治体経営方針」を横断して取り組んでいく内容です。」</p>
15	p.14	<p>「趣旨」の上から 3 行目</p> <p>「小平市においても、自助・共助・公助による役割分担や連携・協働のネットワークを育む視点を重視しながら、安全安心に暮らせる地域社会の実現に取り組んでいます。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「小平市においても、自助・共助・公助の力を束ね、連携・協働のネットワークを育む視点を重視しながら、安全安心に暮らせる地域社会の実現に取り組んでいます。」</p>
16	p.14	<p>「ひとづくりの視点」の上から 1 点目</p> <p>「防災訓練や啓発事業の実施をはじめ、幅広い防災教育による「自らの命は自ら守る」という自助意識の定着化など、あらゆる世代への防災・減災意識の高揚を図ります。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「防災訓練や啓発事業の実施をはじめとした幅広い防災教育により、自らの命は自ら守るという「自助」意識の定着化など、あらゆる世代への防災・減災意識の高揚を図ります。」</p>
17	p.14	<p>「ひとづくりの視点」の上から 2 点目</p> <p>「避難所における、様々な課題に女性の視点をいかすため、女性防災リーダーの育成に努めます。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「避難所における様々な課題に女性の視点をいかすとともに、女性や若い世代を含めた防災リーダーの育成に努めます。」</p>

18	p.14	<p>「くらしづくりの視点」の上から2点目 「感染症流行時における大規模災害の発生など、<u>複合災害</u>を視野に入れた情報伝達や避難のあり方について検討します。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「感染症流行時における大規模災害の発生など、<u>複合的な状況</u>を視野に入れた情報伝達や避難のあり方について検討します。」</p>
19	p.14	<p>「自治体経営の視点」の上から1点目 「自然災害など様々な危機事象に、迅速かつ的確に対応するため、防災協定の締結などを含む関係機関との連携を進め、情報伝達体制や災害対応力などの<u>強化を図ります。</u>」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「自然災害など様々な危機事象に、迅速かつ的確に対応するため、防災協定の締結などを含む関係機関との連携を進め、情報伝達体制や災害対応力など「<u>公助</u>」の強化を図ります。」</p>
20	p.15	<p>「趣旨」の全文 「核家族化が定着する中で、少子高齢化を背景に、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯の増加、地域での人と人とのつながりの希薄化や地域コミュニティの空洞化が進行する傾向にあります。高齢者世帯や一人暮らしの高齢者をどう見守り支援していくのか、次世代を担う子どもたちをどう育てるのかなど、従来、家庭や地域が担ってきた機能が失われつつあります。また、多発する自然災害や巧妙化・悪質化する犯罪などにどのように対応するのか、地域における課題は複雑化・多様化してきています。それら地域が抱える多くの課題には、住民や地域コミュニティ、NPO など多様な主体によって課題を発見、解決していく仕組みや、住民と行政がそれぞれの立場で役割分担し、連携・協力しながら対処する必要があります。このようなことから、地縁に基づき形成された自治会の育成に加えて、今後は多世代交流、地域で活躍する担い手の支援、それぞれの活動団体・個人のネットワーク化、多様なコミュニティの主体が集まることのできる場づくりを進めていく必要があります。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「少子高齢化、核家族化、ライフスタイルの多様化などを背景に、地域での人と人とのつながりの希薄化や地域コミュニティの空洞化が進行する傾向にあり、従来、家庭や地域が担ってきた機能が低下しつつあります。一方、高齢者世帯や一人暮らしの高齢者をどう見守り支援していくのか、次代を担う子どもたちをどう育てるのか、多発する自然災害や巧妙化・悪質化する犯罪にどう対応するのかなど、身近な地域における課題は複雑化・多様化しています。こうした課題に対し、住民や地域コミュニティ、NPO など多様な主体によって課題を発見、解決していく仕組みや、住民と行政がそれぞれの立場で役割分担し、連携、協力しながら対処する取組が求められます。これらのことを踏まえ、今後は、地縁に基づき形成された自治会の育成に加えて、多世代交流、地域で活躍する担い手の支援、それぞれの活動団体・個人のネットワーク化、多様なコミュニティの主体が集まることのできる場づくりを進めていく必要があります。」</p>
21	p.15	<p>「まちづくりの視点」 1点目と2点目の順序を入れ替え。</p>
22	p.15	<p>「自治体経営の視点」の下から4行目 「また、中央公民館、健康福祉事務センター及び福祉会館の更新等に伴い、生涯学習機能、集会室機能等を複合化する新建物においても、多様な活動や交流の場を設けるとともに、地域課題解決の担い手育成を目指します。」を追記。</p>

【補足資料】

23	p.1	<p>「1 計画策定の趣旨」の上から7行目 「しかし、この危機は、社会全体のデジタルトランスフォーメーション*を加速する機会となり、<u>新たな時代を見据えた社会変革が始まっています。</u>」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「しかし、この危機は、社会全体のデジタルトランスフォーメーション*を加速する機会となり、<u>新たな時代を見据えた働き方や暮らし方への対応が進められています。</u>」</p>
24	p.1	<p>「1 計画策定の趣旨」の上から8行目 「一方、令和元(2019)年の日本人の国内出生数は <u>86万4千人、前年比で5.92%減と急減し、少子化・人口減少が加速しています。</u>」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「一方、令和元(2019)年の日本人の国内出生数は前年より5万3,161人減少し、過去最少の <u>86万5,239人となり、少子化・人口減少が加速しています。</u>」</p>
25	p.4	<p>「1 小平市のあゆみ（原始から中世）」の上から5行目 「人は住んでいませんでしたが、小平の地は昔から交通の上では大切な場所で、<u>古代（奈良平安時代）には東山道武蔵路という主要な道が通り、所沢と府中を結ぶ交通路でした。</u>」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「人は住んでいませんでしたが、小平の地は昔から交通の上では大切な場所で、<u>古代には東山道武蔵路という所沢と府中を結ぶ主要な交通路が通っていたと考えられています。</u>」</p>
26	p.8	<p>「学園都市」の上から4行目 「戦後も、白梅学園短期大学（現・白梅学園大学、白梅学園短期大学）、武蔵野美術大学、嘉悦女子短期大学（現・嘉悦大学）、文化女子大学（現・文化学園大学）と大学の進出が相次ぎました。<u>6つの高校、都立小平特別支援学校、複数の大学校なども含め多様な教育機関を有する小平市は、学園都市でもあります。</u>」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「戦後も、白梅学園短期大学（現・白梅学園大学、白梅学園短期大学）、武蔵野美術大学、嘉悦女子短期大学（現・嘉悦大学）、文化女子大学（現・文化学園大学）と大学の進出が相次ぎました。<u>6つの高校も合わせて、1万6千人を超える学生が小平の地で学んでいます。そのほか、都立小平特別支援学校、複数の大学校なども含め多様な教育機関を有する小平市は、学園都市でもあります。</u>」</p>
27	p.18	<p>「3 公共施設の老朽化に伴う更新ピーク到来」の下から6行目 「仮に、これまで保有してきた公共施設を全て同じように更新する場合の令和42(2060)年までの更新費用の合計は1,707億円にのぼる<u>ことが推計されており、現実的には極めて困難です。</u>」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「仮に、これまで保有してきた公共施設を全て同じように更新する場合の令和42(2060)年までの更新費用の合計は1,707億円にのぼる<u>と推計されており、現実的には極めて困難です。</u>」</p>
28	p.19	<p>「4 地球規模の危機への対応」の上から3行目 「今後、<u>南海トラフ地震や首都直下地震などの巨大地震発生の切迫性が指摘されており、日頃から備え、自然災害から生命や財産を守るための総合的な防災対策を充実させていくことが一層求められています。</u>」</p> <p style="text-align: center;">↓</p>

		「今後、首都直下地震や南海トラフ地震などの巨大地震発生の切迫性が指摘されており、日頃から備え、自然災害から生命や財産を守るための総合的な防災対策を充実させていくことが一層求められています。」
29	p.21	<p>「5 暮らしや働き方を変える Society5.0 時代の到来」の上から 4 行目</p> <p>「Society 5.0 は、IoT や AI、クラウド*、ドローン、自動走行車、無人ロボットなど、最新テクノロジーの活用により、経済発展と課題解決を両立させて、<u>豊かで暮らしやすい地域社会を形成する可能性を秘めています。</u>」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「Society 5.0 は、IoT や AI、クラウド*、ドローン、自動走行車、無人ロボットなど、最新テクノロジーの活用により、経済発展と課題解決を両立させる<u>豊かで暮らしやすい地域社会の姿です。</u>」</p>
30	p.21	<p>「5 暮らしや働き方を変える Society5.0 時代の到来」の中段上から 4 行目</p> <p>「そして、新型コロナウイルス感染症拡大への対処の中で、テレワークやオンライン授業、オンライン診療といった新しい取組が進められるなど、サイバー空間の積極的な活用が<u>余儀なくされ、Society5.0 への転換が一気に加速されました。</u>」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「そして、新型コロナウイルス感染症拡大への対処の中で、テレワークやオンライン授業、オンライン診療といった新しい取組が進められるなど、サイバー空間の積極的な活用が<u>促進され、Society5.0 への転換が一気に加速されました。</u>」</p>